

予測無影響濃度算出の方法論

	特 徴
限られたいくつかの試験データと不確実係数を用いる方法	限定的な試験データであっても、最小の毒性値を示した試験データと不確実係数を用いて、評価が可能。 初期リスク評価を行う際に有用。
種感受性分布解析を用いる方法	多生物種の豊富な試験データを統計的に解析。 信頼性のより高い予測無影響濃度が算出可能。 数多くの試験データを準備する必要。
モデル生態系(メソコスム、再構成系など)の試験データを用いる方法	実際環境に近い条件下で試験を実施。 信頼性のより高い予測影響濃度が算出可能。 特別な知識、スキル、施設が必要。